

件名 昭和38年度笛田団地量産公営住宅
敷地追加地質調査

地盤調査報告書

昭和39年2月

横浜市鶴見区鶴見町239番地

鶴見ボーリング株式会社

TEL (51) 4202番

§ 調 査 概 要

1. 件 名 昭和38年度笛田団地産産公営住宅敷地追加地質調査
2. 場 所 鎌倉市笛田ノノ4ノ番地
3. 調査期間 昭和39年1月30日～2月14日
4. 調査内容 テストボーリング 4ヶ所 孔径 63%

標準貫入試験併用

深度	№6孔	21.18m	} 延 83.70m
	№7孔	21.15m	
	№8孔	21.20m	
	№9孔	20.17m	

5. 使用機械 S.R.S.-100型
ロータリー式ボーリングマシン 1台
6. 現場調査担当者 木戸松太郎技術員外2名
7. 報告書作製者 編見ボーリング株式会社
代表取締役 井沢幸之助

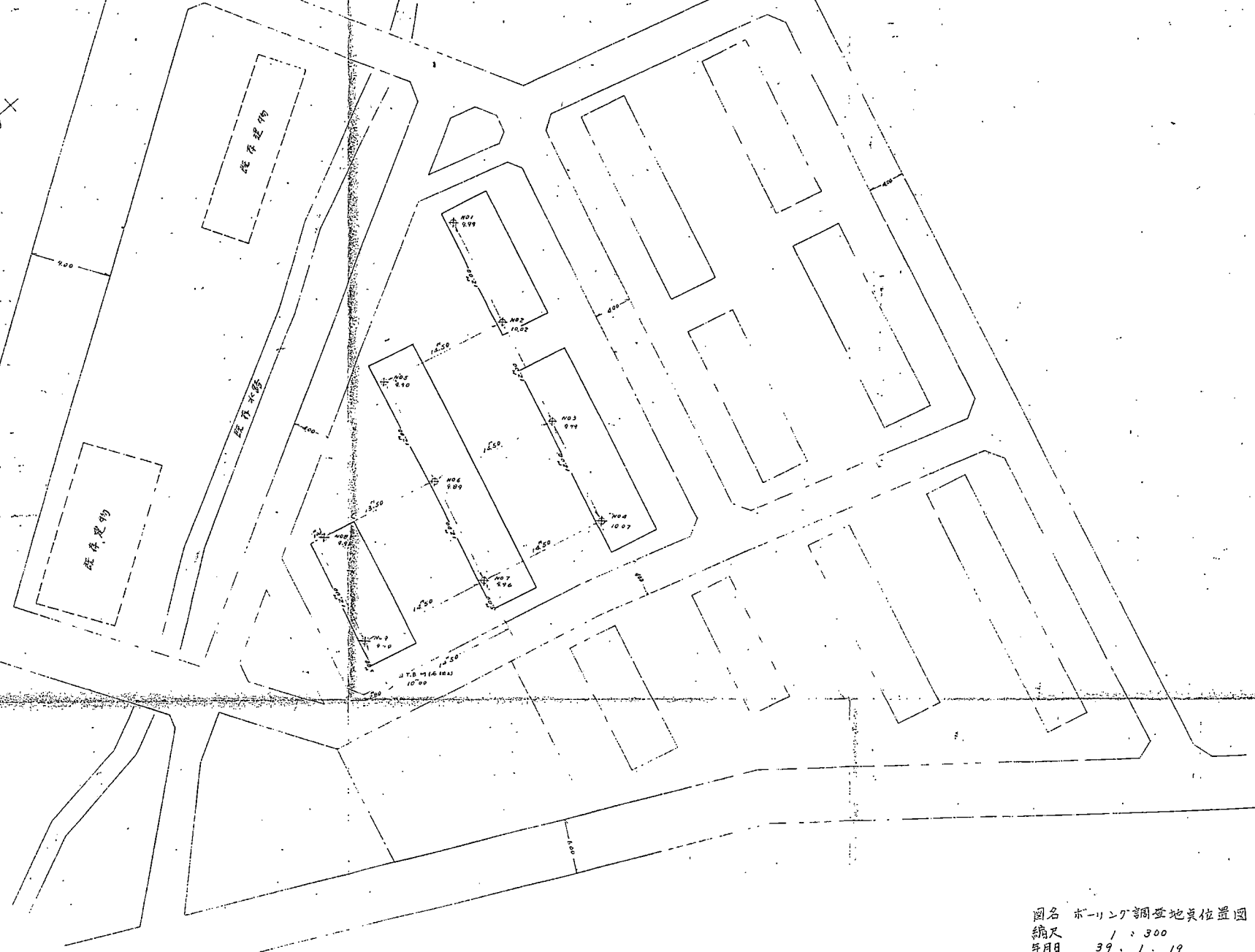
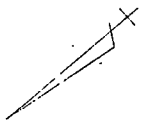
本追加調査は鎌倉市役所の御依頼に依り、上記38年度笛田団地新築工事に先立ち、前回の調査を補足する目的で調査地点位置図に示した4ヶ所に於て標準貫入試験併用のテストボーリングを行い、之に依り敷地内の地盤状況並びに地盤支持力度を調査し、計画建物の基礎設計の一助とせんが為行つたものである。

尚調査に際してはケーシングパイプの挿入及びベントナイト水を使用し

て孔壁の崩壊を防止し、試錐中の徴候及び採取した資料を記録して地層の誤認のない様留意した。

又標準貫入試験（スタンダードペネトレーション）は所定の器具（レイモンドスプーンサンプラー）を使用し、規定の方法で約1m毎に行つて地盤の緊硬度を記録し、標準モンケン（63.5kg）に依る打撃回数（フライスオブノッキング）N値を土質柱状断面図に記載した。

更に試錐中採取した資料は各地層毎にガラス瓶に入れて密封し箱詰めとし土質標本とした。

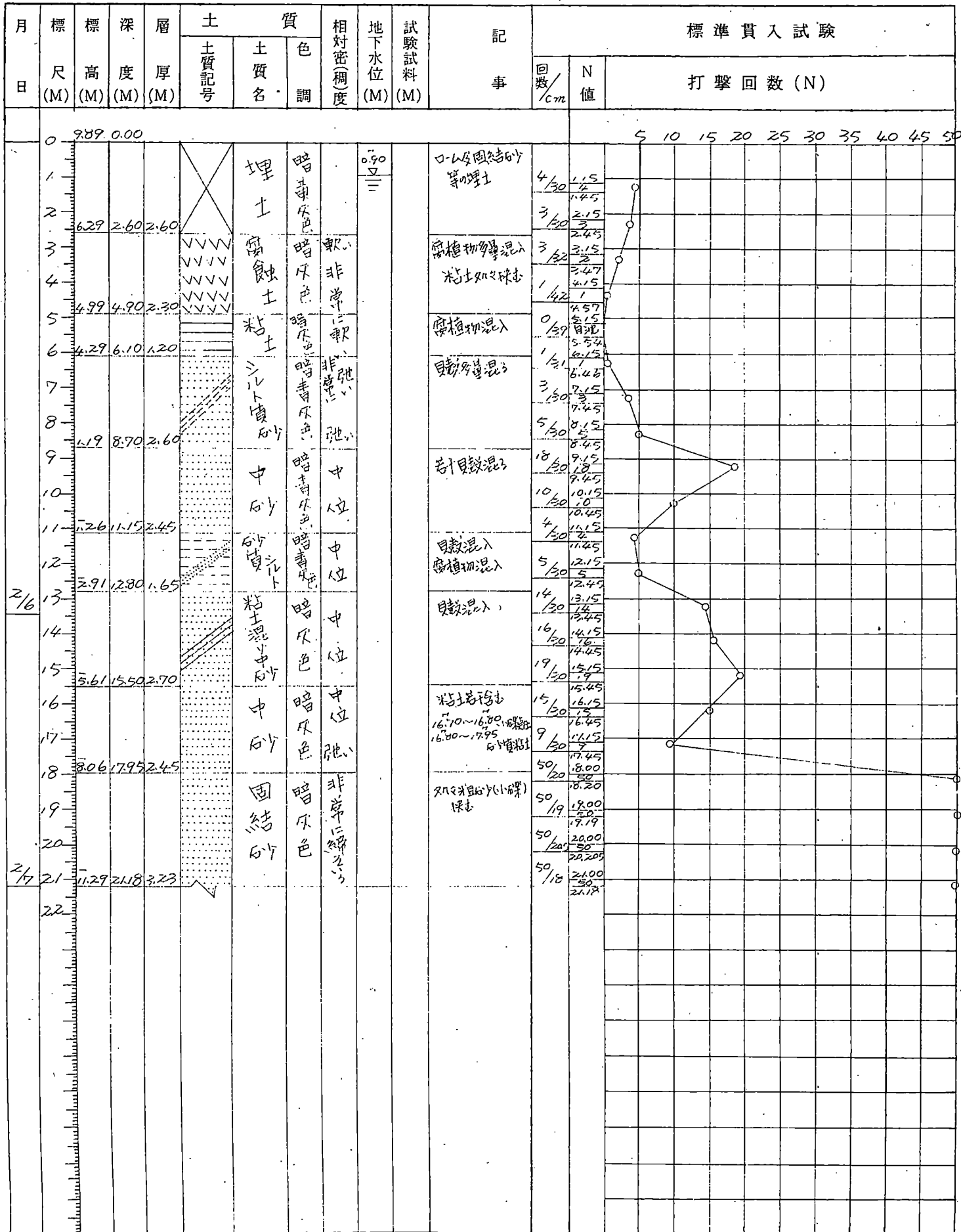


圖名 市一川ヶ調登地契位置圖
縮尺 1 : 300
年月日 39. 1. 19

土質柱状断面図

工事名	昭和36年度第1回田圃地帯改良工事第1号地帯調査				
調査地点	新潟県中野田141番地 No. 6				
試錐機名	S.R.L-100	試錐深度	21M/8	着工	2月6日
試料採取方法	1Eボトサンプ	試錐孔径	65MM	竣功	2月7日

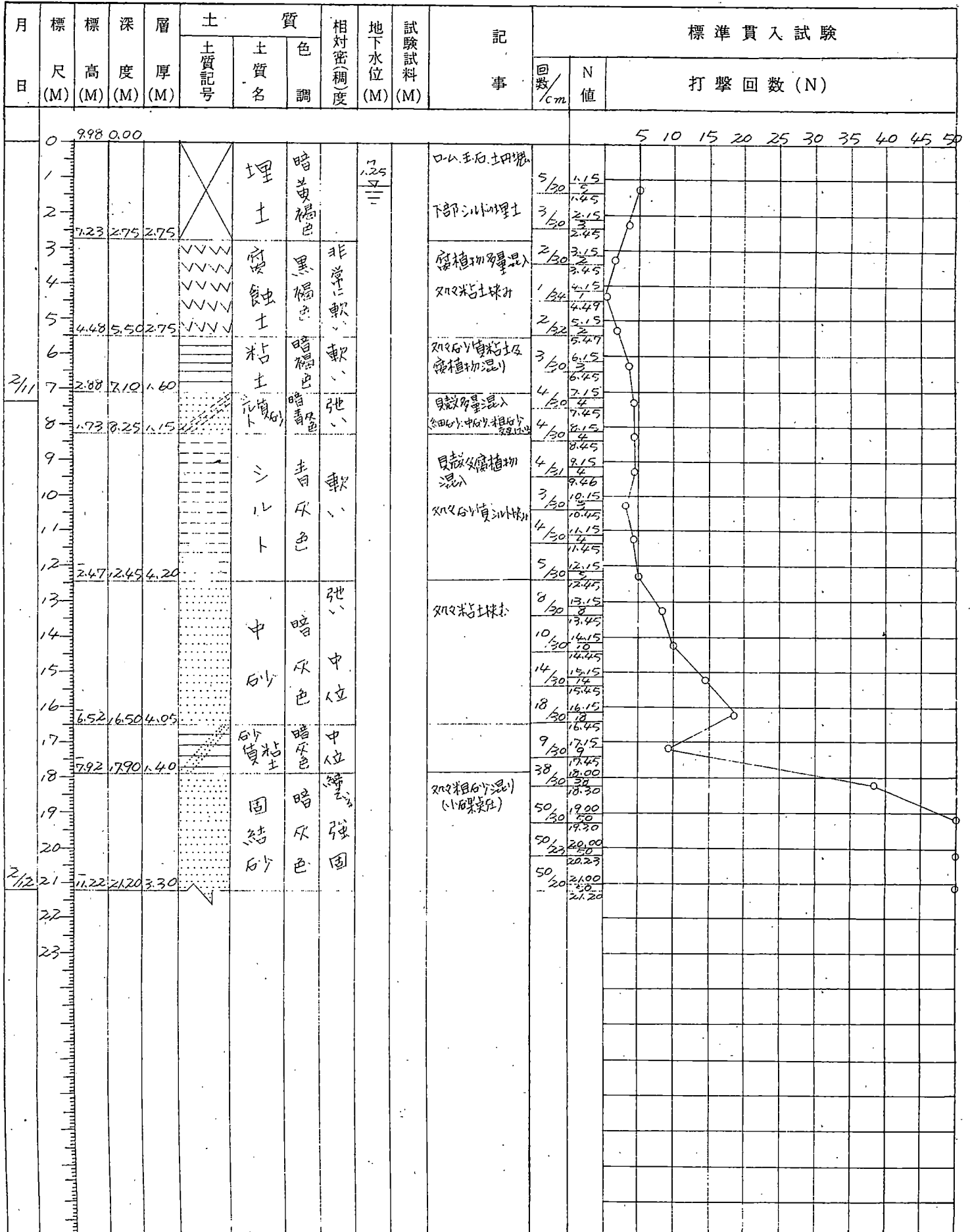
施工者	調査担当者	木村太郎
	施工	堀見ボーリング株式会社



土質柱状断面図

工事名	昭和三十九年度田圃地整理公営住宅敷地地質調査		
調査地点	鎌倉市田圃地114番地 No. 8		
試錐機名	S.R.L-100	試錐深度	21M20 着工 2月11日
試料採取方法	ラベン・サンダー	試錐孔径	65MM 竣功 2月12日

施工者	調査担当者	木戸松太郎
施工	鶴見ボーリング株式会社	



§ 地盤の概要

今回追加調査地点の地盤は土質柱状断面図及び地層想定断面図に示す如く
G Lより下記の如く堆積している。

即ち

	№ 6 孔	№ 7 孔	N 値
① 埋土 G L より	- 2.60m 迄	- 2.60m 迄	N = 3 ~ 4
② 腐 蝕 土	- 4.90m "	- 4.90m "	N = 1 ~ 2
③ 粘 土	- 6.10m "	- 7.25m "	N = 0 ~ 3
④ シルト質砂	- 8.70m "	- 9.50m "	N = 1 ~ 8
⑤ 中 砂	-11.15m "	ナ ヲ	N = 10 ~ 18
⑥ 砂質シルト	-12.80m "	ナ ヲ	N = 4 ~ 5
⑦ 粘土混り中砂	-15.50m "	-12.70m "	N = 7 ~ 19
⑧ 砂質粘土	ナ ヲ	-16.80m "	N = 4 ~ 5
⑨ 中 砂	-17.95m "	-18.50m "	N = 9 ~ 29
⑩ 固 結 砂 (凝灰質砂岩)	-21.18m "	-21.15m "	N = 50

(但し 試錐最終深度迄)

	№ 8 孔	№ 9 孔	N 値
① 埋土 G L より	- 2.75m 迄	- 2.90m 迄	N = 3 ~ 5
② 腐 蝕 土	- 5.50m "	- 5.60m "	N = 1 ~ 2
③ 粘 土	- 7.10m "	- 7.05m "	N = 2 ~ 3
④ シルト質砂	- 8.25m "	- 8.70m "	N = 3 ~ 4
⑤ シ ル ト	-12.45m "	-12.35m "	N = 3 ~ 5
⑥ 砂質粘土		-14.70m "	N = 3 ~ 5
⑦ 中 砂	-16.50m "	-16.50m "	N = 8 ~ 23
⑧ 砂質粘土	-17.90m "	ナ ヲ	N = 9
⑨ 固 結 砂	-21.20m "	-20.17m "	N ≤ 38 ~ 50

調査地点位置図(№ 6 ~ № 9) に示した 4ヶ所で行った今回の追加調査でも、前回調査地点(№ 1 ~ № 5) とほぼ同一の堆積状況を地盤は示している。特に異なる傾向としては④シルト質砂層の層厚が № 8 孔に於て 1.15m、 № 9 孔に於て 1.65m と薄く、又最下層部の固結砂層が № 6 孔で G L - 17.95m、 № 7 孔で G L - 18.50m、 № 8 孔で 17.90m、 № 9 孔では -16.50m よりと大体水平に存在している事である。

以上の外は地層は前回の調査と同一の状況にあるので今回の報告書は基礎に対する見解は省略するので前回の報告書を参考とされたい。

- 以 上 -